箱崎神社本殿　附 宮殿

【所　在　地】伊佐市菱刈町市山
【種　　別】国指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】平成元年５月 19 日

　箱崎神社は，菱刈町市山地区にある。市山地区は，かつて入山村といい，筑前国筥崎宮の神領であったため，文永・弘安の役に加わった武士が，当地に筥崎宮（福岡市東区箱崎）を勧請して神社を建立したという。本殿の屋根は，桟瓦葺きの流れ造で，本殿正面扉上の蟇股の様式，正面角柱間の頭貫，虹梁などに室町時代の様式と琉球建築の様式と思われる特徴がうかがわれ，建築年代を確定する資料はないが，室町時代の後期の建築様式を示し，16 世紀初期の本殿と考えられる。

〈参考〉

●流れ造　神社建築の約７割が示す屋根形式で，屋根の前面が後面に比較して長くのびて，向拝（吹きはなちで，柱間に壁がなく，神仏をおがむところ）を，おおうようにして，しかも側面から見て，やや上反りに流れるように造った形。

●蟇股　奈良時代には梁を受ける構造材として用いられ，平安時代以降だんだん装飾化された飾りで，蟇 蛙がはって足を広げたような形をしていることからこの言葉があり，梁材の上に置き，上からの重みをいくらか支える役目もしている。内側には色々な彫刻が施され，年代が下ると装飾化が強くなる。